

# IV.『伝統文化』が息づく 地域社会の維持・継承

## 1. 地域性を創造する『伝統文化』

### 地域の魅力の源泉としての農山漁村文化

美しく魅力ある農山漁村には、必ず地域独自の生産・生活様式、すなわち地域の個性があります。地域の個性はそれぞれの地域が有している固有の文化によって形づくられています。

農山漁村では特に、長い時間の中で伝承されてきた固有の文化を核として、都市部とは異なる歴史の重みと民俗の香りを帯びる地域文化が存在するのです。

そのような農山漁村文化は多くの日本人を魅了してやみません。農山漁村の魅力の源である地域文化を大切に保全し、創造し、活用していくことは美しい農山漁村づくりの重要なテーマです。

### ●社会的遺産としての地域文化

**地**域の個性を発現する地域文化とは、それぞれの地域において育まれてきた生活様式やしきたりなどを指します。それは、住民が日々の生活の中で学習していく行動基準でもあるのです。こうした地域文化は、いわば社会的遺産 (social heritage) と表現することもできます。

私たちは生まれた時は自然的存在に過ぎませんが、成長に応じて既に社会に用意されている様式を模倣し学習しながら習得していきます。家族、仲間集団、近隣集団、地域社会の中で生活していくに連れて、先達が創造し、蓄積してきた偉大な地域文化を身につけていくことになります。



稲作風景は日本人が共有する原風景です。

地域それぞれに稲作様式があり、例えば、はさ掛け方法は、むらそれぞれに様式が異なります。それはむらの顔として、先人達が大切に守ってきたものなのです。そのことがむらの結束を保ち、社会を維持してきました。



## ●地域文化とアイデンティティ

➤ のような地域文化は、地域社会において  
 ㇿ 住民どうしの繋がりを育む一方で、自地域と他地域とを判別できるような社会個性(アイデンティティ)となります。

同じ地域で暮らしている人々の間には継続的な生活の共同性が保持されるために、風俗や伝統、話し方、思考や生活の仕方、制度やしきたりなど、様々な場面において共通性を発展させます。そうした共通性は、他の地域社会からみれば個性ある様式として捉えられ、それが地域の独自性としての魅力の源泉となります。このような意味で、地域文化は地域社会の統合性の根拠として、また社会個性(アイデンティティ)の根拠といえるのです。

例えば、地域文化の伝承が途絶えて全国に共通な文化が凌駕するようになると、社会個性(アイデンティティ)が喪失すると共に、住民相互の連帯性は弱まり、郷土意識さえも失われていくこととなります。そうすると、都市住民はもとよりそこで暮らしてきた住民自身も、地域に魅力を感じたり関心を向けることはなくなります。地域文化とは、地域社会の命脈ともいえるものなのです。



## ●個性ある地域文化“農山漁村文化”は日本人の共通の財産

**地**域独自の文化が形成され、地域社会が躍動感に満ちあふれ個性を輝かせている農山漁村は大変魅力的です。そこでは、家屋の建築様式、郷土料理、方言、農作業様式等々、あるものは苦勞し、あるものは無意識のうちに次世代に伝えてきたその地域ならではの様式が、現代にしっかりと根づいているのです。

これらは、遠い過去から現代までを貫いている「むらの精神」であり、農山漁村にしかない日本人の共通の財産、拠り所でもあるのです。近年、都市住民が農山漁村に惹き付けられているのは、日本人の琴線に触れる「むらの精神」を求めているからに他なりません。

地域文化を形づくる伝統や風習等を大切に保全し、継承し、活用していくことは、魅力ある美しい農山漁村づくりの重要なテーマです。



茅葺き屋根、屋敷囲い、防風林、集落の佇まい。住民にとってはごくありふれた景観も、長い時間を耐え抜いてきた生きる技に支えられているものです。それは、地域独自の様式であり文化です。魅力ある地域の顔をつくり出しているこれらの農山漁村文化は日本人に共有の財産です。

## 農山漁村文化を支える地域の『伝統文化』

農山漁村文化は、長い時間のなかで先人達が創りあげてきた『伝統文化』によって粹付けられます。伝統文化はその地域において営まれてきた農林漁業とそこに住む人々の中で生まれ、歴史的な経緯の中で脈々と受け継がれてきた生産・生活にかかわる様式全てが当てはまります。

美しい農山漁村づくりを推進していくとき、改めて地域の生産・生活様式にまなざしを向け、地域に伝承されてきた『伝統文化』を評価し価値づけることで、地域の魅力を再確認することになります。それは地域への愛情を育み、住民の定住意識を高めていくことになるでしょう。

### ●地域文化の核としての『伝統文化』とその特色

**地**域に伝承されてきた文化は、地域で生きていく上での生産・生活の様式そのものですが、その中でも『伝統文化』とは、そこに歴史性と民俗性を見いだすことができるものです。

具体的には、歴史的に伝承されてきた、衣食住等の日常の生活行為、言語、生産技術、空間の利用形態、祭礼神事等、農山漁村の生活の中に随所にちりばめられている様々なものが該当します。

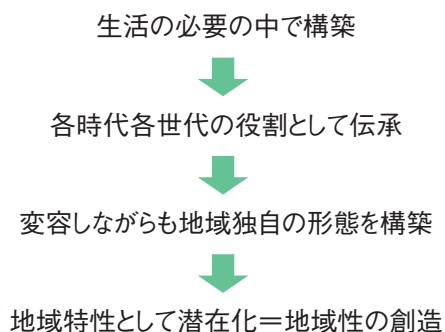
また伝統文化の性質として、第一に生活の必

要の中で構築し、第二に各世代の役割として意識されて伝承し続けられ、第三に伝承の過程で少しずつ変容しながら地域独自の形態が作り上げられ、そして第四に、当たり前にあるものとして現代の生活の中で潜在化していく、すなわち、根付いていく、という傾向をあげることができます。

そのため、各時代・各世代において、あえて意識して未来へ受け継いでいかない限り、目先の利便性や機能性、流行などに押し流されて消滅してしまうものも存在します。従って、次世代へ伝える方法やしぐみ、すなわち伝承様式そのものも重要な要素の一つとして捉えることができます。

### 『伝統文化』の性質

#### 『伝統文化』のつくり方



#### 『伝統文化』の現れ方

- ・ 日常の生活行為（伝統的な衣食住様式）
- ・ 言語（方言、ものの名称）
- ・ 生産技術（農作業方法や工芸技術）
- ・ 空間の利用形態（集落形態、山河の利用方法）
- ・ 祭礼神事（年中行事、人生儀礼）……等

“伝承様式”そのもの（伝わっていくしぐみ、しぐみ）も『伝統文化』の重要な要素

●地域の魅力と『伝統文化』の再評価

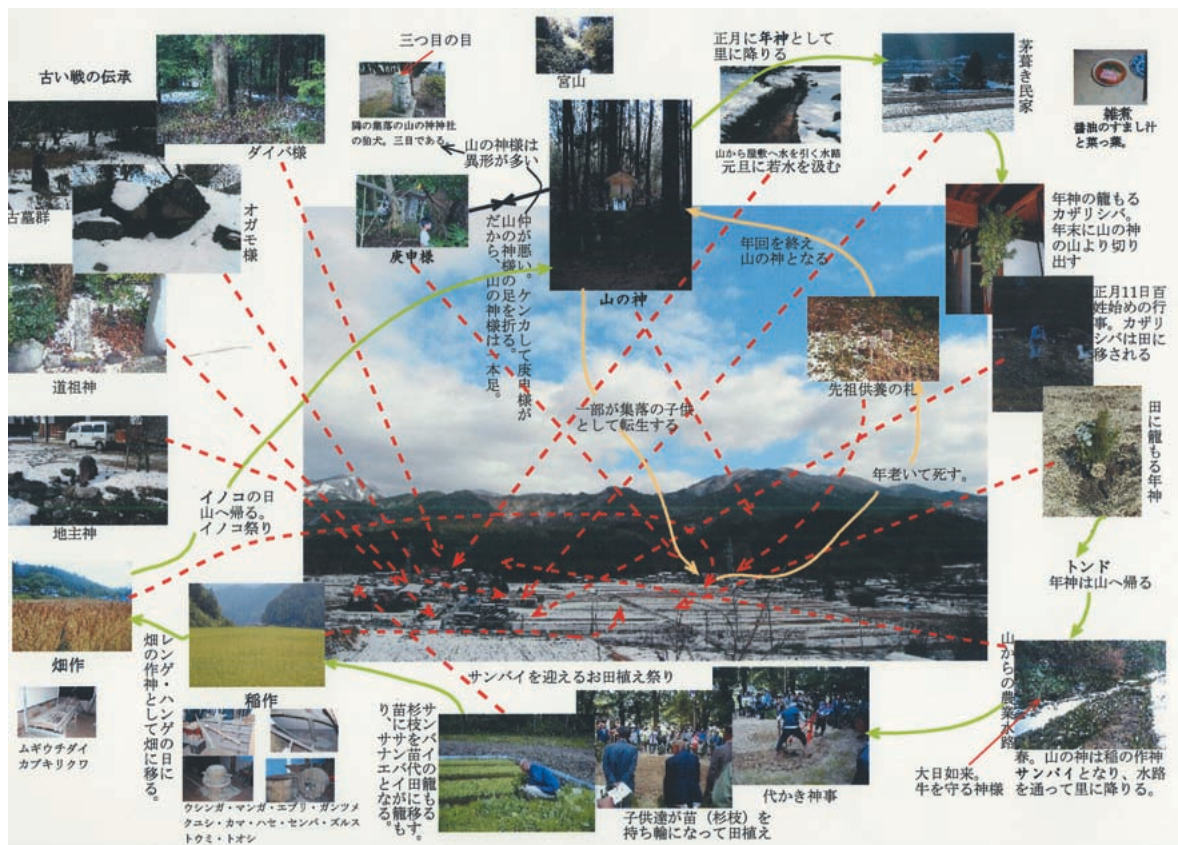
**魅**力ある美しい農山漁村には、生活の中にしっかりと根付いた伝統文化によって支えられている地域の個性が輝いています。あまりに身近にあるがために見落とされがちな地域固有の文化に改めてまなざしを注ぎ、現在の生活を支えていることの価値を再評価することが大切です。

日々の衣食住、言葉、農作業、つきあい、掃除の仕方等々、普段の生活をもう一度見直してみてください。そこに必ず先人達の息吹や歴史

の重みを見いだすことでしょう。それらこそ地域を地域たらしめている個性(アイデンティティ)の源であり、魅力ある美しい農山漁村づくりに欠かせない要素なのです。

伝統文化の再評価とは、自分たちと生活空間の絆を再確認し、しっかりと結び直すことともいえます。自ら住まう地域社会への愛情と誇りを生み出すためには地域固有の文化を問い直すことが最も有効な手段の一つです。地域社会を「我が愛する故郷」と呼べるように、住民みんなで伝統文化を育んでいくことこそ、魅力ある美しい農山漁村づくりの目標といえるのです。

地域の日常の「暮らし」から感じとれる『伝統文化』のいろいろ



例えば、見慣れた風景を意識して見直してみましょう。何気なく眺めていた雑木林や石碑・石塔に、先達の生きる技や息づかいが感じ取れます。普段当たり前のように作業していた水田や畑の形にも先人の弛まざる努力と知恵に感嘆するでしょう。集落の周りを囲む山々も地域ならではの呼称があるかも知れません。伝承されてきた地域文化とは、水田、畑地、水路、屋敷、山林、そして田起こしや田植え、草取り等々の労働や、食事や衣類等々の生活、そして子どもの成長を願う行事、といった「暮らし」の中に広く存在し、それらに深い意味を与えています。その意味を問い直していくことで、自分たちの地域社会や日々の暮らしがどれほど地域文化に彩られているかを再確認することになるでしょう。

(農業工学研究所 山下裕作氏作成)

## 『伝統文化』を息づかせる“地域社会”

人に様々な人柄があるように、地域には“村がら”というべき多様な個性があります。『伝統文化』を活用しながら、借り物ではない個性ある“村がら”をつくっていくことにより、より魅力的な美しい農山漁村づくりが可能となります。そして美しい農山漁村づくりの主体は、それぞれの地域の“地域社会”であり、地域に最も適合する『伝統文化』の活用方法を、地域社会全体でみつけていくことが重要となります。この“地域社会”による発見・模索の作業は、価値観の多様化する現代にあっても、個々の利害を超えた地域の共通目標となり得、地域活性化の鍵となります。

### ●地域固有の“村がら”という個性

**地**域には固有の“村がら”があり、様々な個性に満ちています。この「村がら」の村とは、人間集団としての「ムラ」を指します。一方で“村がら”は、「人柄が顔に現れる」というように景観となって地域の顔を創り出しています。魅力ある“村がら”は美しい景観となって現れてくるのです。このような“村がら”が、地域に適合する合意形成や住民主体の活動の内容、さらに空間デザインや景観形成手法を導き定める重要な要素となることもあります。

### ●模倣では生まれ得ない“村がら”

“**村**がら”を創り出している主要な要素が地域の伝統文化です。“村がら”は地域生活の中から滲み出てくるものですから、過去から現在へと受け継がれてきた地域文化の上に成立している“地域社会”の有りようを个性的に表現したものなのです。つまり、伝統文化がたくさん存在する地域であっても、その活用や表現の方法が他地域の模倣であっては“村がら”として感じ取られるものがなく、人々の心を捉えることは難しいものとなるでしょう。

現在、あちこちでワークショップ等の住民参加型活動の方法論や、空間デザイン手法を駆使した地域活性化の優良事例モデルが紹介されています。しかし、これらをマニュアルやモデル通りに実施しても成功するとは限りません。地

域の“村がら”を理解し、地域の個性に最も適した伝統文化の活用方を模索していくことが成功の秘訣です。

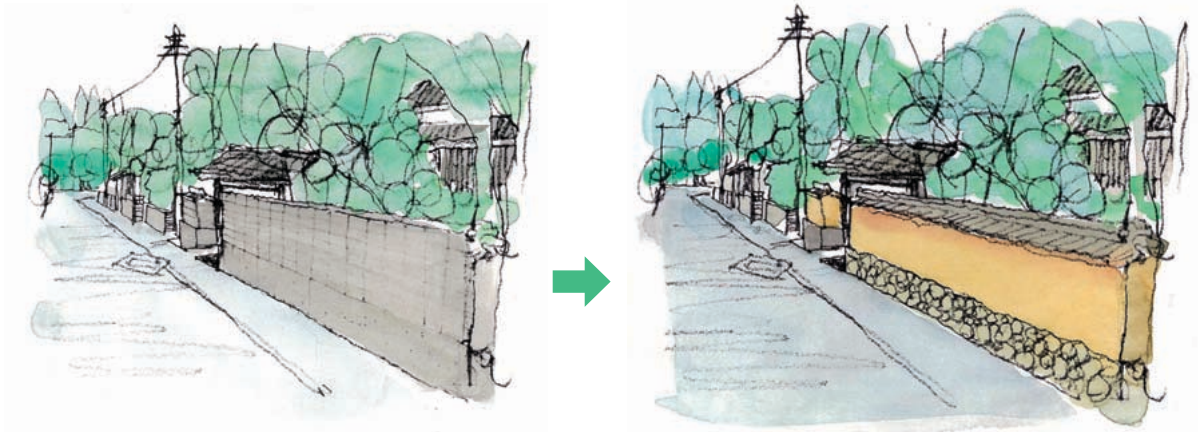
### ●『伝統文化』を活用し、“地域社会”の維持・継承を目指す

**魅**力ある“村がら”を創り出していくためには、地域社会が伝統文化についてしっかりとした認識を持ち、安直に流行や周囲に迎合することなく、地域に最も適した生産・生活様式を見極めていくことが求められます。このことは、必ずしも地域文化伝承のこれまでの方法に固執するというのではなく、農山漁村環境を取り巻く新しいニーズに照らし合わせながら伝統文化をアレンジしていくことでもあります。伝統文化の様々な様式をデザインの要素として活用し、空間に彩りを添えていくことも有効な手だてかもしれません。

これらを活用していく主体は、それぞれの地域の“地域社会”なのです。伝統文化が存在するというだけではなく、それを受け継いできた人々の活動、すなわち魅力ある“地域社会”の存在が地域を活性化させ、美しい農山漁村をつくってきたのです。

言い換えれば、伝統文化そのものを後世に伝承することが最重要課題ではなく、それを認識・発見し、育てていく“地域社会”そのものの維持・継承という行為が、借り物ではない個性ある“村がら”を創出し、これからの美しい農山漁村づくりにつながっていきます。

“村がら”の創出事例



伝統的な集落風景の創出

伝統的な建築様式を導入することで風格ある集落景観が演出されます。  
 “村がら”は地域独自のデザイン・技法等、さりげない『伝統文化』の活用と工夫で創出できます。



伝統文化資源をモチーフにする

生産生活に欠かせなかった水車は、今でこそその役割を閉じましたが、住民の心象風景の重要な要素であり続けています。そうした要素をデザインコードとして利用、また、他地域の水車ではなく、自地域の水車を活用・復活することで、住民は地域への愛着を育みます。



地域の記憶を辿る

それぞれの場所には、古来より伝承されてきた場利用の作法があります。場所、空間、風景と会話しながら独自の利用のあり方を模索していくことで“村がら”は醸成されていきます。